

スポーツ少年団については、少子化等の影響もあり、登録団員数は平成24年度の5,851人から平成28年度には4,982人に減少しています。今後、スポーツ少年団の活動活性化のため、魅力的な事業展開を行うことや市民に向けた広報等を積極的に行うことが求められています。

○上記の課題等を改善していくために、体育・保健体育の授業はもちろん、学校生活における運動部活動を含めた体育的活動の充実が大切となってきます。またスポーツ関係団体等との連携を図り、子どものスポーツの機会を充実させていく必要があります。

表5 岡山市新体力テストの結果

小学1年男子

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
50m走(秒)	11.6	11.7	11.8	11.8
ソフトボール投げ(m)	8.2	8.0	8.0	7.9
握力(kg)	8.6	8.6	8.4	8.6
反復横とび(回)	27.3	27.2	26.8	27.1
8項目合計得点の平均	29.8	28.9	30.3	28.3

小学1年女子

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
50m走(秒)	12.0	12.0	12.1	12.1
ソフトボール投げ(m)	6.1	6.1	5.4	5.4
握力(kg)	8.1	8.2	7.9	8.1
反復横とび(回)	26.1	26.0	25.8	25.9
8項目合計得点の平均	29.7	29.7	29.6	28.1

小学6年男子

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
50m走(秒)	8.9	8.9	8.9	8.9
ソフトボール投げ(m)	27.7	27.0	26.3	26.0
握力(kg)	18.4	18.2	18.2	18.1
反復横とび(回)	46.2	46.8	46.3	46.4
8項目合計得点の平均	62.0	60.3	63.0	60.0

小学6年女子

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
50m走(秒)	9.2	9.2	9.2	9.2
ソフトボール投げ(m)	16.4	16.4	15.8	16.0
握力(kg)	18.1	18.1	17.8	17.8
反復横とび(回)	43.1	43.6	42.9	43.5
8項目合計得点の平均	62.0	60.8	63.1	60.4

保健体育課調べ

※岡山市新体力テストは8種類のテスト項目について実施されていますが、表5についてはこのうち4種類のテスト項目に係る平均記録を掲載しています。また、表中の「8項目合計得点の平均」は、下記8種類のテスト項目に係る得点合計の平均を示しています。

8種類：握力、上体おこし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ

表6 岡山市内中学校運動部 入部状況

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
男子	74.5%	74.3%	74.3%	74.0%	73.6%
女子	47.7%	48.7%	49.5%	49.6%	50.3%
総計	61.4%	61.8%	62.2%	61.9%	62.1%

保健体育課調べ

(3) 成年期・全世代

【現状と課題及び施策の方向性】

○国の第2期スポーツ基本計画（平成29年3月）においては、成人の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度、週3回以上のスポーツ実施率が30%程度となることを目指しており、本市においてもスポーツに親しむ人の拡大を図る必要があります。

○市が実施した岡山市スポーツ市民意識調査（平成28年度）では、成人の週1回以上のスポーツ実施率(表7)は39.6%となっています。また、スポーツを行った理由(表8)として、多くの人が「健康・体

力の維持・増進」(66.5%)、「運動不足の解消」(44.8%)、「気分転換・ストレス解消」(44.2%)を挙げています。一方、1年間にスポーツを行っていない人は27.6%と3割近くの人が、日頃からスポーツをしていない状況がうかがえます。

スポーツをしない理由としては、「仕事が忙しい」(23.4%)、「機会がない」(23.2%)、「時間がない」(22.6%)などとなっています。(表9)

過去1年間に行われたスポーツでは、散歩、ウォーキング、体操等が多くなっており、比較的時間や場所に制約がなく、1人でもできるスポーツが多い傾向にあります。(図5)

○地域のスポーツ活動において、重要な役割を担っているスポーツ推進委員ですが、岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)では、スポーツ推進委員について、「活動内容を知っている」、「活動内容は知らないが名前を聞いたことはある」を合わせて20.1%となっており、市民の認知度が低い状況となっています。今後、本市のスポーツを推進していくために欠かせないスポーツ推進委員について、活動を活性化させていくためにも認知度の向上を図っていく必要があります。

○地域のスポーツ活動の拠点として、多世代、他種目、多志向を対象とした総合型地域スポーツクラブが結成されている地域もあり、その活動により地域のスポーツのみならず、地域コミュニティの回復にも役立っている事例もありますが、岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)では、総合型地域スポーツクラブについて、「知らない」が84.4%となっており、市民の認知度が低い状況となっています。国の第2期スポーツ基本計画においても「地域に根ざしたクラブとして定着していくため、総合型クラブによる地域の課題解決に向けた取組を推進する。」との政策目標も掲げられており、今後、本市としても認知度の向上を図っていく必要があります。

(岡山市内の総合型地域スポーツクラブ数：平成28年度 12団体(活動休止中のクラブは除く))。

○岡山市民体育大会等の各種スポーツ大会の近年の参加者数は、横ばい傾向か減少傾向となっています。平成27年度まで岡山市が主催していたこれらの大会は、平成28年度から(一財)岡山市体育協会が主催として行っており、今後より一層魅力ある充実した大会にしていく必要があります。また、(一財)岡山市体育協会の加盟団体である学区体育協会は、各区域内において、体育大会等の各種スポーツ行事を

実施することにより、各区域にてスポーツの普及・振興に大きな役割を果たしています。

- スポーツに親しむ人の増加を図るためには、各種スポーツ大会等多様なスポーツの機会の提供や地域でスポーツ活動の普及活動等を行っているスポーツ推進委員やスポーツ関係団体のより一層の活性化が求められます。さらに健康の維持・増進を図るため、スポーツを通じた健康づくりを支援していきます。

表7 スポーツの実施度

週に1日以上	39.6%
月に1～3日程度	17.4%
3か月に1～2日程度	7.9%
年に1～3日程度	7.0%
行っていない	27.6%
無回答	0.6%

出典：岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)

表8 スポーツを行った理由（ベスト5）

健康・体力の維持・増進	66.5%
運動不足の解消	44.8%
気分転換・ストレス解消	44.2%
好きだから・楽しいから(趣味等)	39.5%
美容や肥満の解消	24.8%
友人・仲間との交流	24.8%

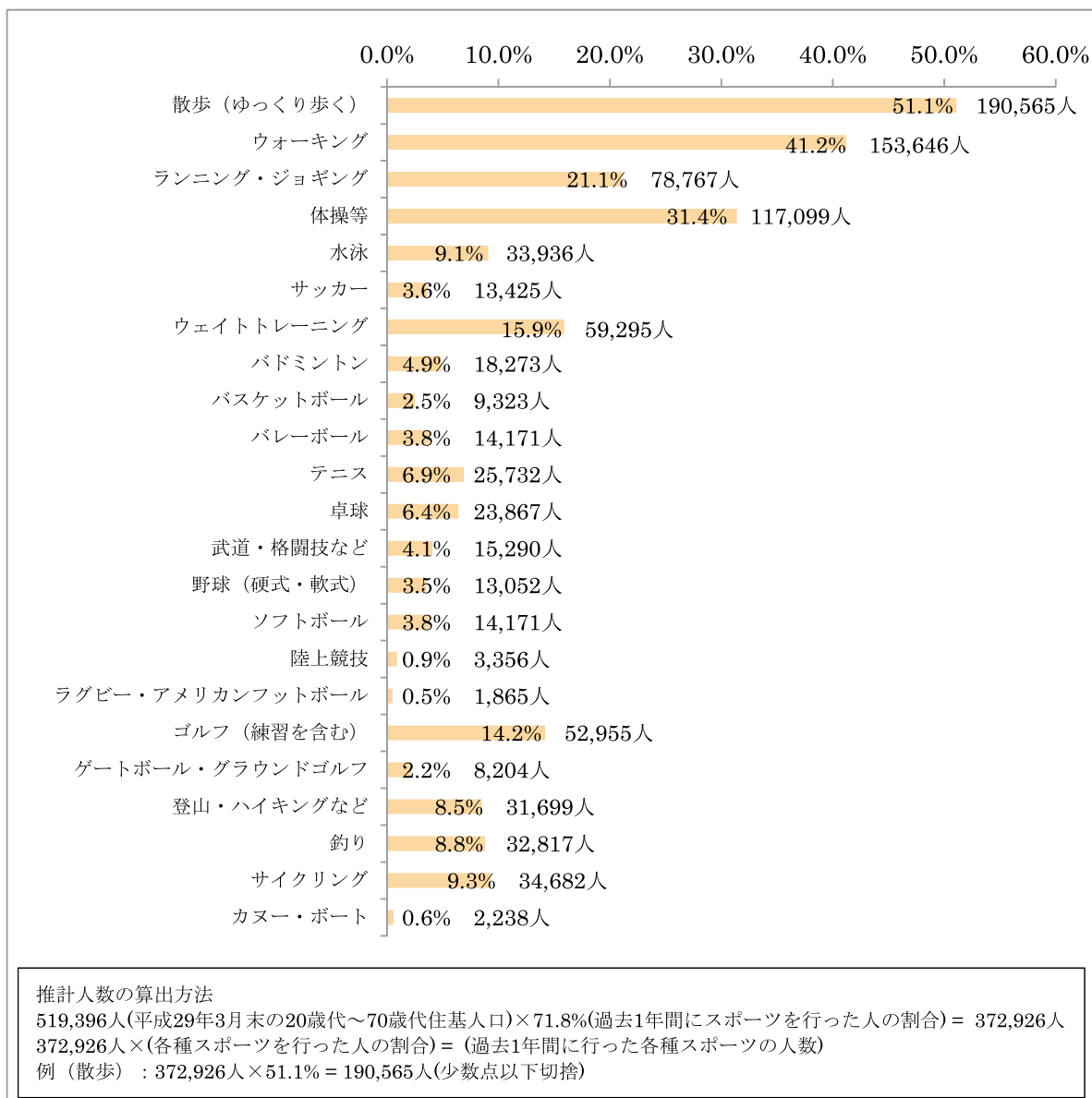
出典：岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)

表9 スポーツを行わなかった理由（ベスト5）

仕事が忙しい	23.4%
機会がない	23.2%
時間がない	22.6%
家事・育児が忙しい	13.1%
金銭的な余裕がない	11.8%

出典：岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)

図5 過去1年間で行ったスポーツの種類と推計人数（主な種目）



出典：岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)

(4) 高齢者

【現状と課題及び施策の方向性】

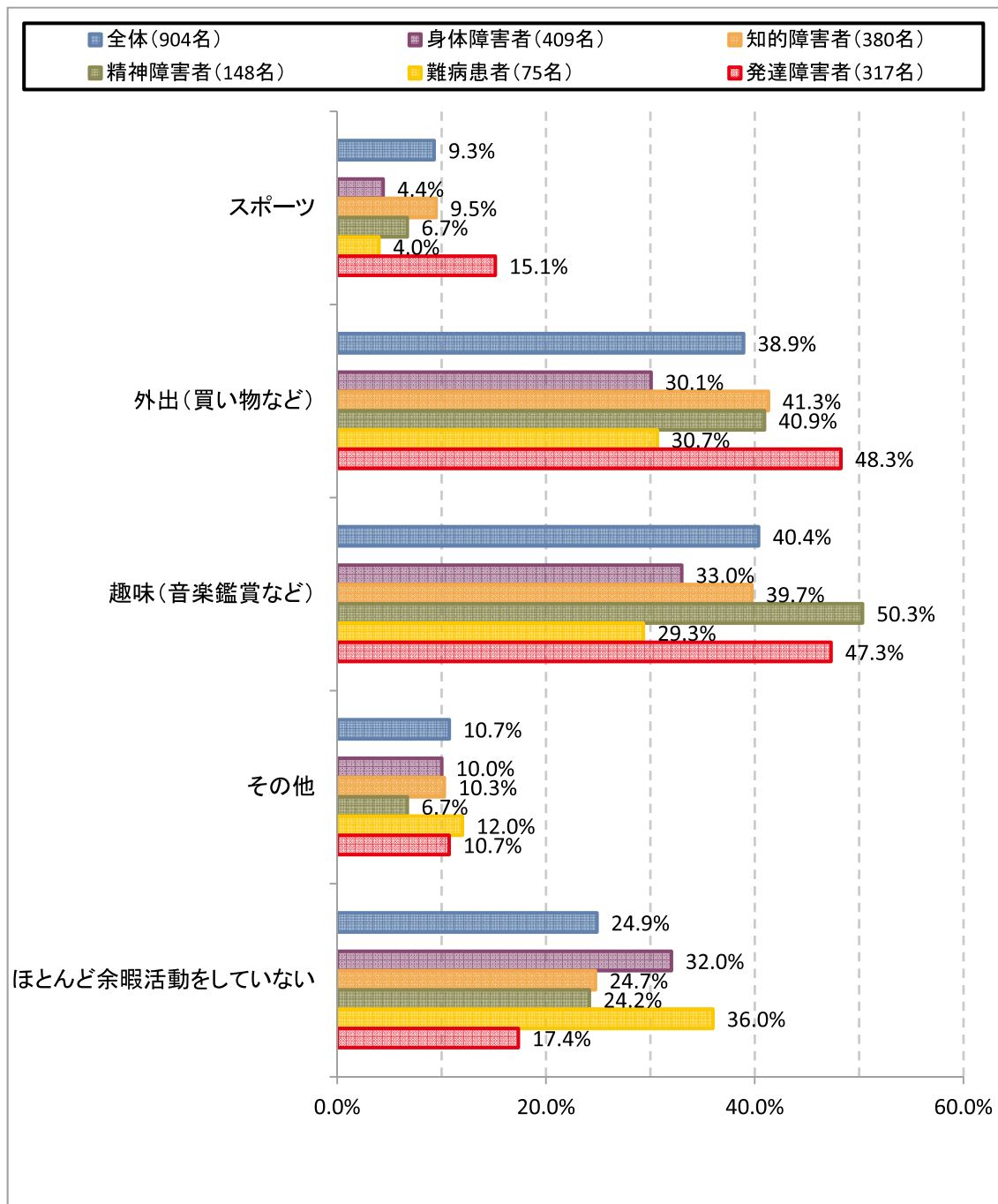
- 本市の高齢者人口比率（65歳以上人口の比率）は、平成27年に24.7%となり、ほぼ4人に1人が高齢者となりました。今後、さらなる少子高齢化の進展により、社会活動を支える一員として高齢者に期待される役割はますます大きくなっていきます。また、高齢期においても、健康づくりや生きがいづくりを通して、いかに健康で生き生きと暮らせるかは大きな課題です。
- こうした中、高齢者が健康を維持していくためにも、スポーツの果たす役割はますます大きくなっており、高齢者の年齢や体力に応じて安全・安心にスポーツに取り組める環境づくりが重要です。

(5) 障害者

【現状と課題及び施策の方向性】

- スポーツ基本法において、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしながら推進するとの基本理念が掲げられています。また、障害のある人にとってのスポーツは、障害の程度の維持や改善、健康の維持増進という側面だけでなく、障害者の自立と社会参加の促進に寄与するという大きな役割があり、障害者の自己実現と生活の質を高めるために有意義な活動です。国の第2期スポーツ基本計画（平成29年3月）においては、障害者の週1回以上のスポーツ実施率を40%程度となることを目指していますが、岡山市障害者プラン（平成27年4月）の調査結果（図6）において、余暇時間の過ごし方における本市の障害者のスポーツ実施率は9%程度となっています。これを向上させるために、岡山市障害者体育センター等で実施しているスポーツ講習会や岡山市障害者親善スポーツ大会また岡山県等と共催で実施している岡山県障害者スポーツ大会については、新規の参加者を増やしていくことが求められています。また、障害者スポーツ指導員についても引き続き養成を行っていく必要があります。

図6 余暇時間の過ごし方



出典：岡山市障害者プラン（平成27年度）

(6) スポーツ施設の整備及び管理

【現状と課題及び施策の方向性】

○地域で身近に利用できる小規模なスポーツ施設については、各地域に存在していますが、多くの施設が老朽化しており、更新期を迎えています。全国大会などの大規模な大会が開催できる施設については、多くの競技団体等から施設数の増加要望があることに加え、老朽化した施設も多いため、計画的な修繕・整備が必要となっています。このため、老朽化した施設の計画的な修繕の実施や大規模な施設整備を検討し、安全・安心で利用しやすい環境づくりを進める必要があります。

(7) 学校体育施設の開放

【現状と課題及び施策の方向性】

○平成29年度の学校開放の開放率は小学校の体育館が98.9%、運動場が96.7%、中学校の体育館が94.7%、運動場が55.3%となっており、多くの学校施設が地域のスポーツ活動拠点として利用されていますが、利用率が高く、新規利用者が参入しにくい状況となっています。利用者数などの諸条件が整った施設の夜間照明設置や未開放施設の開放が必要ですが、部活動など学校活動との利用調整や高額な照明施設の整備費用の確保などが課題となります。

(8) 体育団体の育成

【現状と課題及び施策の方向性】

○昭和23年10月に設立された岡山市体育協会は平成28年4月に財団法人化され、岡山市のスポーツ振興を担う中心的な団体として、岡山市におけるスポーツの普及振興に関する事業を行っています。今後より一層、生涯スポーツの更なる普及振興を行う必要があります。一方で収入の多くを補助金等に依存している現状があるため、岡山市は、引き続き（一財）岡山市体育協会の育成のために必要な支援を行うとともに同協会も財政基盤の充実強化のため、自主財源の拡大に向けた取組が求められています。

1 スポーツを通じたまちの活性化と一体感の醸成

(1) トップチーム支援

○支援関連団体との連携及び新たな支援の掘り起し（実施主体：スポーツ振興課）

トップチームの支援については、市民デーの開催など、今後もチームと連携しながら、岡山市のスポーツ振興、地域の活性化、郷土愛の醸成に繋がるような施策を検討していくとともに、引き続きホームゲームにおける試合観戦者数の増加に努めます。（平成27年度：ファジアーノ岡山8,412人、岡山シーガルズ4,044人→平成32年度目標値：ファジアーノ岡山12,000人、岡山シーガルズ4,500人）

(2) おかやまマラソン

○岡山県や関係団体との共同による「おかやまマラソン」の開催（実施主体：おかやまマラソン実行委員会）

岡山県や関係団体と連携して「おかやまマラソン」を開催し、「走る、みる、支える」をテーマに岡山のまちが一体となることで、おかやまマラソンの魅力をさらに高め、その魅力を県内外に発信していきます。また、応募者数や女性参加者の増加に繋がる施策等を検討していきます。

(3) 大規模スポーツ大会の誘致

○共催負担金・大会開催負担金の充実（実施主体：スポーツ振興課）

市民が全国大会・国際大会のスポーツを観戦する機会を増やし、スポーツへの関心を高めるため、今後もより多くの大会が当市で開催されるよう、共催負担金・大会開催負担金の充実に向けた検討を行います。また、（公社）おかやま観光コンベンション協会（※16）など他の団体とも連携し、競技団体に積極的な大会開催を呼びかけます。

○大会情報の広報（実施主体：スポーツ振興課）

本市の「L I F Eおかやま」等により、市内で開催されるスポーツイベントなどを積極的に広報することで、市民の「みる」スポーツに対する意欲を高めます。

同時に「する」スポーツやボランティア等の「ささえる」スポーツへの市民参加が促進されるように努めます。

○大規模スポーツ大会等の誘致に向けた受入体制の充実（実施主体：スポーツ振興課）

県内の競技団体等と連携し、大規模スポーツ大会等の誘致を進めます。

また、「JOCパートナー都市協定（※17）」の締結を目指します。

○スポーツツーリズムの推進（実施主体：スポーツ振興課）

スポーツコミッションと連携し、大規模なスポーツ大会等の開催による波及効果が高まるよう努め、スポーツツーリズムの推進を図ります。